

お知らせ

請願・陳情はお早めに

6月定例会では5月29日までに提出された請願・陳情を審査します。

なお、請願・陳情の内容などをお尋ねする場合がありますので、提出される方は、早めに議会事務局までご持参ください。

議場の雰囲気を目と耳で

傍聴席はみなさんを待っています。

お気軽にどうぞ！

先着順（一般39席・車イス2席・記者5席）

問い合わせ：議会事務局へ

☎(558)1111

6月定例会予定

6月6日(火)初日	一般質問
7日(水)2日目	一般質問
8日(木)3日目	一般質問
9日(金)4日目	議案審議
13日(火)	総務文教委員会
14日(水)	環境建設委員会
15日(木)	福祉委員会
21日(水)最終日	委員長報告・追加議案審議

開会時間は午前9時30分
変更となる場合もあります。

インターネットで会議録が閲覧できます

あきる野市役所のホームページに市議会の会議録検索コーナーが設置されています。平成7年9月以降の本会議、常任委員会、予算特別委員会、決算特別委員会の会議録が掲載されています。あきる野市役所のホームページ（<http://www.city.akiruno.tokyo.jp/>）から「あきる野市議会」または「議会会議録」を検索し、ご覧ください。

今回から、議会だよりもご覧になれます

5月1日発行の議会だよりから、ホームページでもご覧いただけるようになりました。会議録と同様に、ホームページのあきる野市議会から検索できますので、是非ご覧ください。

あきる野 ウオッチング! あんなとこ、こんなとこ

高尾（たかお）

文献によりますと「尾」は山裾の伸びたところとか、小高いところをあらわすことばであり、「高尾」は「山裾の小高く伸びた所」という意味になるようです。

Takao

高尾神社（たかおじんじゃ・高尾660番地）

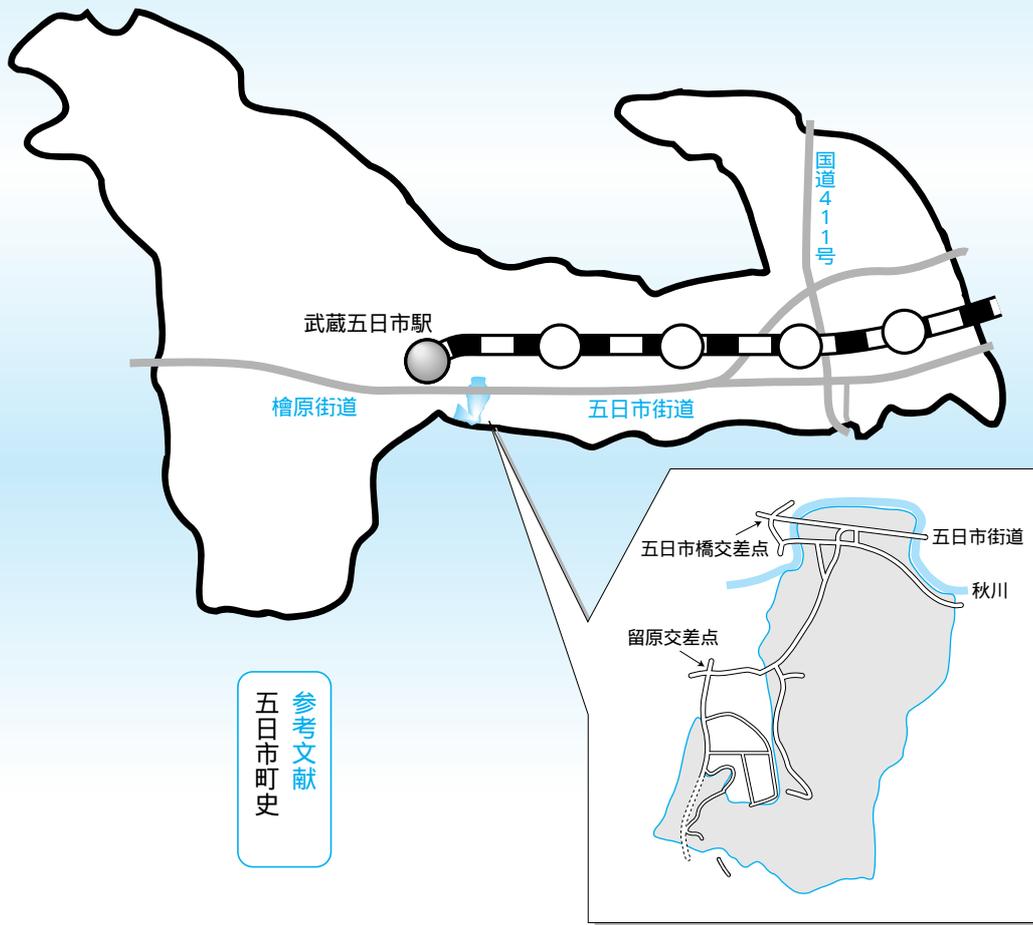
寛文年間（1661年～1673年）の検地帳に「徐地壹反貳畝」とあるのみで創立起源・由来は明らかではありません。明治6年には村社に列格されました。



大光寺（だいこうじ・高尾218番地）

草創は文亀2年（1502年）高尾村領主平山氏の祈願所として大悲願寺9世恵伝の弟子秀等法印を開山とし、不動尊を安置して、明王院と号したのが始まりと伝えられています。





参考文獻
五日市町史

小峰トンネル（こみねトンネル・高尾431番地10付近）

近世以来、五日市と八王子との関係は密接不可分で、五日市地方は八王子を中心とする経済圏の北辺を形成していました。特に、幕末以来、生糸や黒八丈織を通じて、更に明治後期より大正期にかけては、製糸や織物業を通じて、結合は一層深まってきました。五日市・八王子間は約四里（16キロメートル）であり、日帰り往復の距離にありました。ただし、秋川南岸沿いに走る丘陵を越えなければならず、通常最も多く利用されたのが、小峰峠でした。日清戦争の戦勝景気は五日市地方にも及び、人や物資の動きが一段と活発になると、五日市・八王子間の乗合馬車の会社が誕生しました。しかし、難所である小峰越えでは馬の疲労が激しく、健全な経営を行なうことが困難になりました。大正期になり、自動車が輸入されるようになると、かねてより建設中であった小峰トンネルの完成を機に、五日市・八王子間を乗合自動車の営業が開始されました。その後、五日市の「五」と八王子の「王」をとり「五王自動車商会」という商号を名乗り、時流にのって、バス路線網を発達させていきました。五日市を中心に放射線状にバス路線を広げ、秋川流域住民の欠くことのできない足として発展していくこととなりました。



すれ違いのできなかったトンネル



新小峰トンネル

クイズ

答えの中から正しいものを選び、ハガキに書いてお送りください。

問1 6月定例会はいつから始まる予定でしょうか。

- 6月6日
- 6月7日
- 6月8日

問2 今定例会で、平成18年度予算が審査された予算特別委員会は、何日間開催されたでしょうか。

- 2日
- 3日
- 4日

〔応募方法〕

ハガキに、答え、住所、氏名、年齢と議会だよりに対するご意見・ご感想などを書き添えてください。正解者の中から抽選で10名の方に記念品をプレゼントします。

あて先 〒197-0814 あきる野市二宮350番地
あきる野市議会事務局

締切り 5月15日(当日消印有効)

前号の正解は、問1「12月6日」・問2「名張市」でした。

応募総数は62名で、正解者の中から抽選で10名の方に記念品をお贈りしました。

なお、当選者の発表は、記念品の発送をもってかえさせていただきます。たくさんのご応募、ありがとうございました。

青木

これを解決して頂けるのは愛読者の皆様のご意見と考えています。

季節は移り、春から初夏を迎えるなかでこの議会だよりを発行します。活字という媒体である熱い議論の臨場感がどれだけお伝えできるのか、編集委員の最も悩ましい課題です。

梅が咲いて始まった3月議会は桜が咲いて閉会しました。予算をはじめ議案や陳情の審議に、いつにも増して熱い意見が飛び交います。もともと主義主張が異なる議員の集まりですから当然ではあります。最後は「多数決」で決着が図られます。

編集後記

春の風物詩 山吹(やまぶき)



山吹は、バラ科の低木で、春半ばの4月頃に、小振りで鮮やかな、文字通り山吹色の花を密生して咲かせます。花びらは、五弁からなる一重山吹と八重山吹の二種類があります。

山吹は、やや湿り気があり、こもれびのある地を好み、市内でも、養沢、戸倉の山のふもとや雨間、牛沼、草花等の丘陵地などに自生しています。

また、山吹というと、太田道灌の話に出てくる「七重八重 花は咲けども山吹の 実の(蓑)ひとつだに なきぞ悲しき」という歌が思い出されます。道灌が狩りに出てにわか雨にあい、立ち寄った民家で蓑を所望したところ、ひとりの娘が出てきて一枝の山吹を差し出しました。しかし、道灌にはその意味がわかりませんでした。帰宅後、早速家臣に話すと、それは花が咲いても実がつかない山吹(八重)にたとえ「家が貧しく蓑さえ持ち合わせがない」ため、断ったものであると教えられました。道灌は自己の不勉強を恥じ、以後、大いに学問に励み、知勇兼備の歌人として名をなしたといわれています。